

2024 フクシマ連帯キャラバン報告書

今回の福島連帯キャラバンには3日間の初参加でした。個人的にも福島には来る事がなく、運動とはどういうものか考える機会となり、自分にとって非常に大きな収穫がありました。

初日の県民大集会では、風化させるな、させてはいけない、という強い意志を感じました。数年前の県民大集会では数倍以上の人数が集まり、大きな声を上げていたと聞きました。人数の減少が顕著でありました。比較するものでは無いことは分かりますが、行動に参加する人の風化現象は止められていないと思いました。それでも原発反対を主張する、震災を経験した現女子高校生達の強く重い発言1つ1つに感銘を受けました。

2日目には、津波の被害にあった請戸小学校にて、震災の爪痕を聞き、見て、そして感じ、自分の心に爪痕として残りました。自然の脅威、人間の無力さ、そういったものを改めて感じさせられました。

3日目では、原告団の方々とのフィールドワークを行いました。放射能は目には見えず、風が吹けば拡散し、生物全てに影響を与えます。本来は線を引いて避難区域を決められるような代物ではなく、フィールドワーク中にも高い数値を検出した場所もありました。

復興は原発をやめるまでではなく、人々の生活を戻すまでが復興だと強く感じます。

学んだことや感じたことを活かし、これからの脱原発運動、震災を風化させない取り組みを仲間を増やし小さい力から大きな力へと転換し、目標を掲げ行動していきましょう！！

東北地方八戸通運支部青年婦人部 木村 理久